



Title	業務委託に関する研究の動向について：国別、年度別の文献レビュー
Author(s)	伊藤, 紀代; 草野, 知美
Citation	日本看護管理学会年次大会講演抄録集, 12, 163
Issue Date	2008
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/53409
Type	article
File Information	nihonkango-12-163.pdf



[Instructions for use](#)

業務委託に関する研究の動向について ～国別、年度別の文献レビュー～

伊藤 紀代¹、草野 知美²

¹北海道大学大学院保健科学研究所、²北海道大学医学部保健学科

【はじめに】

2007年12月に、平成20年度日本看護協会教育計画の中で、「専門職業人として看護職に必要な能力の全体像」として、他の看護職および保健医療福祉関係者に看護の提供を「委任」することが含まれ、看護師の質の向上が求められている。看護師不足が深刻化している米国においては、業務委託 (delegation) は看護管理の分野で扱われるトピックである。そこで、業務委託を扱う研究の動向を探ることを目的として、海外と国内の文献を比較、分析した。

【方法】

調査期間は2007年12月から2008年2月である。海外の文献に関しては、PubMed、ProQuest、Science Directを用い、「Delegation + Nursing」を検索語とした。国内の文献に関しては、医学中央雑誌 (以下、医中誌) を用い、「業務委託」、「業務委託 + 看護」で検索を行った。異なる検索エンジンで同じ文献がヒットするなど重複がないようにカウントし、年度別、国別で分類した。

【結果】

海外の文献 (英語の文献) は、PubMedで「Delegation」で検索すると1352件ヒットしたため、「Delegation + Nursing」を検索語とした。その結果、457件のヒットがあり、ProQuestでは134件 (重複を除く)、Science Directでは5件 (重複を除く) であり、合計596件を分析対象とした。国別で分類した結果、アメリカが315件 (52%)、次

いでイギリスが48件 (8%)、カナダが23件 (4%) で、日本は第4位の21件 (4%) であった。年度別で見ると、1958年の論文が最も古く、1989年には10件と二桁台となり、その後十数年間、年20~30数件の論文が発表されるようになった。2004年には過去最高の57件となり、2005年から2007年は年に40数件の論文が報告されていた。国内の文献は、「業務委託」では医中誌に66件ヒットした。1983年の会議録が最も古い文献であり、近年でも年に数件の論文、学会発表がされている程度であった。「業務委託 + 看護」でも14件ヒットし、1992年の文献が最も古いものであった。これらは他の検索エンジンとの重複はなかった。

【考察】

業務委託に関しては、アメリカにおける研究が盛んであり、論文数、歴史ともに他の国々を圧倒していた。そのため、アメリカから学ぶことがかなり有用であると考えられた。国際的な研究チームによる論文もアメリカの雑誌に発表していた。わが国においては、業務委託に関する研究は始まったばかりであると思われた。社会保障制度や文化的背景が異なるため、研究結果のわが国への適用は慎重を期すべきと考えられた。本研究の限界として、研究内容について言及していない点が挙げられる。

【結語】

業務委託に関する研究は、アメリカが先進国であり、論文数、歴史ともに豊富である。